

# 鈴鹿サーキット 50周年アニバーサリーデー

## 開催概要のご案内

### MENU

■鈴鹿サーキット開場 50周年にあたって	P. 1
■イベント概要	P. 2
■ゲストライダー・ドライバー決定	P. 3~5
■タイムトリップパーキング	P. 6
■特設ウェブサイトのご案内	P. 7

## 鈴鹿サーキット開場 50 周年にあたって

1962 年 9 月に開場した鈴鹿サーキットは、今年で 50 周年を迎えることができました。

これまで半世紀にわたる歴史を積み重ねてくることができたのも、レースに参加いただいた皆様、それを支えていただいた関係者の皆様、そして観戦いただいた多くのファンの皆様の絶大なるご支援とご協力の賜物と深く感謝を申し上げます。

Honda の創業者である本田宗一郎と藤澤武夫は、日本に高速道路が建設される以前に、オートバイやクルマに求められる走行性能が高まることを予見し「レースをやらなければクルマは良くなる」という考えのもと、鈴鹿サーキットの建設を決定しました。

そして国内初となる国際格式のレーシングコースの開場とともに、日本の近代モータースポーツは大きく花開き、軌を一つにして自動車産業も目覚ましい発展を遂げました。

私供はこの 50 年を記念し、全ての皆様への感謝の思いを込めて、来る 2012 年 9 月 1 日、2 日の両日に「鈴鹿サーキット 50 周年アニバーサリーデー」を開催いたします。

このイベントは単に鈴鹿サーキットの 50 周年を祝うにとどまらず、この会場を舞台に、近代モータースポーツの歴史を産業の歴史とともに振り返り、そして皆様とともに、いま、これからのモータースポーツの振興と産業の発展を誓い合う、画期的なイベントとして開催したいと考えております。

日本のモータースポーツの歴史を鈴鹿サーキットで表現し、希望あふれるモビリティの未来へ繋げて行くためにそこに集う多くのファンと関係者の皆様とともに、モータースポーツの持つ素晴らしさを体感いただけますよう、準備を進めて参ります。

皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

そして「鈴鹿サーキット 50 周年アニバーサリーデー」にご期待ください。



株式会社モビリティランド  
取締役社長 大島 裕志

## イベント概要

### 鈴鹿サーキット 50周年とともに 近代モータースポーツの50年が再現される盛大なイベントに！

鈴鹿サーキットが誕生して50年。本格的なレーシングコースの誕生は、日本のモータースポーツにとって、その幕開けといってもいいほど大きな出来事であった。それから半世紀の間、様々なマシンが駆け抜け、観る者を感動させてきた「SUZUKA」において、歴史的一幕を再現し、50年分のドラマと興奮、そして感動を呼び起こさせるイベント「50周年アニバーサリーデー」を開催する。

コース上では往年のマシンが走り、パドックには懐かしいクルマと日本モータースポーツの歴史が生み出した名マシンが集う。往年のドライバーやライダーが顔を揃えるトークイベントも繰り広げられ、これまでにない時代を超えた壮大なイベントとなる。



### 1960年代から始まる壮大な歴史絵巻！ 2輪、4輪ともにエポックメイキングなレース、マシン、ライダー＆ドライバーが鈴鹿サーキットに蘇る！

コース上で展開されるのは'60年代から始まる年代別に展開するエポックなレースの数々だ。4輪レースでは'63年第1回日本グランプリ、翌'64年第2回日本グランプリから鈴鹿グレート20、'80年代～'90年代のF1日本グランプリなどで、それぞれに活躍したマシン、ドライバーが登場する。2輪レースも第1回グランプリロードレースを始め「世界グランプリ」や「鈴鹿8時間耐久レース」など時代を超えた激闘の数々を往年のマシンとライダーがコース上を彩り、日本のモータースポーツの歴史では最大級の規模となる壮大な歴史絵巻が展開される。

(参加マシンやドライバー＆ライダーは決定し次第、順次HP上で発表いたします)



大会名称 (英文表記)	鈴鹿サーキット 50周年アニバーサリーデー SUZUKA CIRCUIT 50th Anniversary Day
主催	株式会社モビリティランド 鈴鹿サーキット
会場	鈴鹿サーキット 国際レーシングコース
日程	2012年9月1日(土)～2日(日)
入場料金	鈴鹿サーキット 50周年アニバーサリーデーは ゆうえんち入園料でご入場いただけます 鈴鹿サーキット特設ウェブサイトにて特別無料招待券を ダウンロードいただけます

## 国内外のゲストライダー・ドライバー

### 伝説のドライバー、ライダーがアニバーサリーデーに登場 海外からのゲストも多数来日が決定！

鈴鹿サーキットの50周年を祝って往年のドライバー&ライダーやレース関係者が鈴鹿サーキットに大集合し、数々のイベントを盛り上げてくれる。海外からもすでにジム・レッドマンやアレックス・ナニーニ、ケニー・ロバーツ、エディ・ローソン、ウェイン・レイニーといったスペシャルなゲストの来日が決定した。もちろん海外からだけでなく、国内からのゲストも数多く登場してくれる予定だ。

これらゲストによる走行やトークショーなどが2日間にわたって繰り広げられる。  
(参加が決まったゲストは順次HPで発表いたします)

### 50年前の鈴鹿サーキットオープニングレースで優勝を飾った 伝説のライダー ジム・レッドマンが登場！

1962年11月、鈴鹿サーキットのオープニングレースである第1回全日本選手権ロードレースのセニア350ccとセニア250ccにおいて優勝を飾り、'60年代に世界選手権ロードレースで活躍したジム・レッドマンが「鈴鹿サーキット50周年アニバーサリーデー」のために来日する。レッドマンは350ccクラスと250ccクラスで計6回のタイトルを獲得した伝説のライダーだ。特に'63年日本で初めて開催された「世界選手権第1回日本グランプリロードレース」でホンダRC164を駆り優勝争いを演じ鈴鹿を沸かせたシーンは有名である。



'64年世界選手権第2回日本グランプリロードレース 350ccクラス スタート (レッドマン一番手前)



表彰式 (レッドマン中央)



### ジェームス・アーサー・レッドマン James Arthur Redman

「グランプリでの現役時代、日本でのレースには何度も出場し、それはとても楽しい時でした。鈴鹿では多くのファンが応援してくれ、まるで自分のホームグラウンドでのレースのようで嬉しかったことを覚えています。本田宗一郎氏や藤澤武夫氏、そしてチーム監督であった河島喜好氏らホンダの方々がとても親切にしてくれたのも懐かしい思い出です。

当時、日本での出来事は我々にとっては珍しいことだらけでしたが、日本の関係者も観客の皆さんのおかげで最初からすべてがうまく事が運び、日本グランプリでの3年間で多くの勝利を得られました。この勝利は私の誇りであり、日本の皆さんとともに勝ち得たものだと思います。

レースから引退する際、本田宗一郎氏が日本に招待してくれましたが、その時は日本を訪れるのもこれで最後かと思いとても寂しくなったものです。しかし、9月に鈴鹿でのアニバーサリーデーのために来日する機会ができ、とてもワクワクしています。その時、最高のコンディションでデモ走行できるよう今から準備しています。久しぶりに日本の皆さんにお会いするのを本当に楽しみにしています」

1931年11月8日イギリス生まれ。通称ジム・レッドマンと呼ばれる。'59年にノートンから世界選手権に参戦。'60年にホンダに移籍後、一気に頭角を現し'61年ベルギーGP(250ccクラス)で初優勝を飾る。翌年は250ccと350ccの両クラスでチャンピオンとなり2冠を達成。'66年の西ドイツGPでの勝利は世界最高峰クラスでのホンダの初優勝である。計6回の世界タイトルを獲得。マン島TTレースでも6度の勝利に輝いている。

## 鈴鹿で2回の勝利に輝いたアレッサンドロ・ナニーニの来日が決定！

‘89年F1日本グランプリと‘97年鈴鹿1000kmの覇者、アレッサンドロ・ナニーニの「50周年アニバーサリーデー」への出演が決定した。ナニーニは鈴鹿で2回、それもF1とGTという異なるカテゴリで優勝を果たした鈴鹿に縁の深いドライバーだ。



‘89年鈴鹿 GP 表彰式



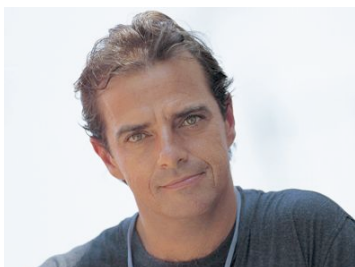
‘89年鈴鹿 GP



‘97年鈴鹿 1000km

‘89年F1日本グランプリは、タイトル争いをしてきたセナとプロストがシケインで接触、トップチェッカーを受けたセナがその後失格になったという伝説のレース。そのレースで、ナニーニは生涯唯一のF1優勝を成し遂げた。繰り上げとはいえ、当時のナニーニは実力、人気ともトップドライバーの仲間入りを果たした新鋭で、グランプリウィナーに相応しい走りだった。

翌‘90年、ヘリコプター事故による大怪我でF1ドライバーの道は断たれたものの、懸命のリハビリでレーシングドライバーとして奇跡の復活を遂げる。‘92年にはツーリングカーで復帰し、‘97年にはFIA-GTにメルセデスで参戦、第7戦となる鈴鹿1000kmでは見事に優勝を飾った。そしてこの年でレーシングドライバーを引退。鈴鹿での勝利が生涯戦績における最後の優勝である。



### アレッサンドロ・ナニーニ *Alessandro Nannini*

1959年7月7日イタリア生まれ。‘77年にラリーでモータースポーツを始め、‘80年にレースデビューする。F2やWECにランチアから参戦後86年ミナルディからF1デビューする。グランプリ通算77戦で優勝は‘89年日本グランプリでの1回。‘90年、日本グランプリ直前の事故で大怪我を負うも‘92年からツーリングカーでレースに復帰する。‘94年DTM4位、そして‘97年のシーズンを終え引退した。実家はイタリア・シエナでは有名な老舗菓子店。レース引退後は実家の家業を継いだり、カフェを営み実業家として活躍中である。

## 伝説の GP ライダーがアニバーサリーデーに登場！

ワールドグランプリの黄金時代とも言える'80年代から'90年代に、数々の伝説を残した3人の偉大なるチャンピオン、ケニー・ロバーツ、エディ・ローソン、ウェイン・レイニーが揃って来日することが決定した。当日に鈴鹿で数々の名勝負を繰り広げたマシンによるデモ走行やトークショーが予定されている。



### ケニー・ロバーツ *Kenny Roberts*

1951年12月31日アメリカ生まれ。キング・ケニーの愛称で知られる伝説のライダー。'73年AMA グランドナショナル選手権において史上最年少でチャンピオンを獲得。'78年からはヤマハのワークスライダーとしてWGPにフル参戦を果たすと、その年から3年連続でタイトルを獲る偉業を達成。WGPにおける初めてのアメリカ人ライダーとなった。'83年スペンサーとの歴史に残る激戦の末、僅差で敗れWGPから引退。その後は'85年に平忠彦とのペアで鈴鹿8耐に電撃参戦。一大センセーショナルを巻き起こす。レースではトップを快走するもチェッカー間際のトラブルでリタイア。しかしその世界レベルの走りどドラマチックな結末は、今も8耐の名勝負として語り継がれている。

#### [本人コメント]

「鈴鹿で思い出されるのは、なんといっても'85年の鈴鹿8耐のことです。レースもエキサイティングだったし、レースを観に来ているファンの熱狂はファンタスティックの一言でした。

鈴鹿サーキット50周年という記念の年に、再びその鈴鹿に足を運ぶことができ、日本の素晴らしいモータースポーツファンの皆さんに会えることを楽しみにしています」



### エディ・ローソン *Eddie Lawson*

1958年3月11日アメリカ生まれ。ミニバイクから12歳でダートトラックにデビュー。AMAを経て'81年カワサキからWGP250ccクラスに参戦する。'81年はAMAでチャンピオンも獲得した。'83年マルポロ・ヤマハ・チームと契約。キング・ケニーのチームメイトとなった。'84年ライバルといわれたスペンサーのタイトル防衛を阻み初のワールドチャンピオンとなる。以降'86、'88年とチャンピオンに輝き'89年ロスマンズ・ホンダ・チーム電撃移籍。レイニーやホンダのエース、ワイン・ガードナーを破り連覇を成し遂げた。'90年には再びヤマハに移籍し、同年の鈴鹿8耐では平忠彦とのペアで見事な初優勝を飾った。

#### [本人コメント]

「日本（鈴鹿）でレースをしてからかなりの年数が経ちます。

再び鈴鹿サーキットに戻る事で、いつも熱い応援を送ってもらい、忘れられない沢山の思い出を、ともに味わったファンの皆さんと再会出来ることを、今から大変楽しみにしています」



### ウェイン・レイニー *Wayne Wesley Rainey*

1960年10月23日アメリカ生まれ。6歳の頃からミニバイクでレースを始め、'83年AMAスーパーバイク選手権のチャンピオンとなる。'88年チーム・ロバーツ・ヤマハからWGP500ccクラスにフル参戦を開始。同年には鈴鹿8耐でケビン・マギーとのペアで初優勝を飾る。'89年のWGPではローソンとの熾烈なタイトル争いを演じたが僅差で敗れシリーズ2位に。'90年は第1戦の鈴鹿で快勝し、その年に初の世界チャンピオンを獲得。以降'92年までの3年間はチャンピオンの座を占め続けた。'93年ケビン・シュワーツとのチャンピオン争いの中、第12戦イタリアGPで転倒しタイトルを逃すとともに怪我のために引退を余儀なくされた。先行逃切りの優勝パターンはレイニーパターンと称されるほど独走が持ち味のライダーだった。

#### [本人コメント]

「50周年アニバーサリーに参加するため日本に戻れることができ、とても幸せです。

鈴鹿は1988年に私が初めてGP500に出場した記念すべき場所で、最も好きなサーキットの一つです。

そして1993年にここ鈴鹿で得た勝利は、私にとって最も忘れがたい勝利の一つです。

この秋、再び日本を訪れて、ファンの皆さん達と過ごせることを楽しみにしています」

## タイムトリップパーキング

### 懐かしの名車 300 台が大集合！ 圧巻のパレードランも見逃せない！

『鈴鹿サーキット 50 周年アニバーサリーデー』では、パドックや GP スクエアなどに懐かしの旧車・名車を展示し、ご来場の皆様に観て楽しんでいただく「タイムトリップパーキング」を実施いたします。モータースポーツだけではなく、日本のモータリゼーションの歴史をサーキット内に再現する特別企画を皆様と一緒に作り上げます。またこれらの車両によるパレードランも行なう予定です。

参加していただく車両は一般の皆様から募集いたします。下記のご案内をご覧ください、多くの皆様からのご応募をお待ちしています。

#### 【参加車両募集のご案内】

##### ■募集車両

各年代に生産された 2 輪車・4 輪車 '60 年代：2 輪 4 輪各 50 台、'70 年代：2 輪 4 輪各 50 台、'80 年代：2 輪 4 輪各 50 台

##### ■参加条件

9 月 1 日（土）、2 日（日）のいずれか、もしくは両日において、8:30～18:00 の間、指定エリアに駐車していただける方。また極力、自走にて鈴鹿サーキットまで来場していただける方を募集いたします。やむを得ず積載車で来場される場合は別途ご相談に応じます。

##### ■参加特典

- 1.GP スクエアイベント会場または、レーシングコース内パドックに駐車していただき、多くの来場のお客様に、オーナー様の車両をご覧ください。
- 2.各日 1 回、レーシングコースパレードに参加していただけます。（先導車両付きで走行スピードは、60km 程度）
- 3.50 周年アニバーサリーデー記念タイムトリップパーキング記念グッズ

##### ■参加費用

5,000 円（イベント入場料金、駐車料金、パレード走行費用、記念グッズ含む）

##### ■募集期間

5 月 15 日～6 月末日

##### ■申込み方法

鈴鹿サーキットホームページ「50 周年アニバーサリーデー」応募専用フォームよりお申込みください。

##### ■参加車両の決定

応募いただいたなかで審査させていただき、参加車両を決定させていただきます。審査選考の結果は、2012 年 7 月中にお知らせいたします。



## 特設ウェブサイト

### 鈴鹿サーキット 50周年アニバーサリーデー 特設サイトをオープン

アニバーサリーデーのイベント概要や、展示されるマシン、来場するライダー&ドライバーなどの最新情報を更新していきます。また、タイムトリップパーキングの参加募集なども行います。

### 特設サイトから特別無料招待券がダウンロードできる！

アニバーサリーデーは、特設サイトからダウンロードしていただくと、両日ともに無料でご入場いただけます。



The screenshot shows the website interface for the Suzuka Circuit 50th Anniversary. At the top, there's a banner with the event title and dates (2012.9.1/2). Below the banner are several promotional images for various activities like 'Come to the event', 'Legend Riders Gather', 'Historic Car Collection', and 'J. Redman'. The main content area features a 'MAIN MENU' with links to 'トップページ', 'タイムトリップパーキング', '招待券ダウンロード', and 'ゲスト一覧ページ'. A prominent yellow box offers a '鈴鹿サーキット50周年アニバーサリーデー招待券' (Invitation Ticket) for download (PDF, 000KB). Below this, there's a 'WHAT'S NEW' section with dates and a 'OUTLINE' table.

名 称	鈴鹿サーキット50周年アニバーサリーデー
主 催	株式会社モビリティランド
開催日程	2012年9月1日(土)・2日(日)
開催場所	鈴鹿サーキット 国際レーシングコース
入場料金	鈴鹿サーキット50周年アニバーサリーデーは、ゆうえんも入園料でご入場いただけます。

※内容は予告なく変更となる場合がございます。 ※使用している写真・イラストはイメージです。

PDFファイルをご覧になるには、Adobe® Reader®が必要です。  
Adobe Readerをダウンロードするには左の「Get Adobe Reader」ボタンをクリックしてください。

<http://www.suzukacircuit.jp/50anniversary/>